

第12回

奈良県 作業療法学会

子どもから大人までを応援する作業療法 ～科学と実践～

2020年

6月21日 日

演題募集期間

1月13日(月)～31日(金)

会場

橿原市立かしはら万葉ホール 橿原市小房町11-5

学会長

嶋谷 和之 奈良県総合リハビリテーションセンター

特別講演

講師：宮口 英樹 氏 (広島大学 大学院医系科学研究科 教授)

教育講演Ⅰ

「(仮)子どもを応援するとは？」

：作業療法士の関わり方の分析」

講師：長岡 千賀 氏 (追手門学院大学 経営学部 准教授)

教育講演Ⅱ

「作業科学と脳科学から紐解く

認知症の方への作業療法実践」

講師：横井 賀津志 氏 (森ノ宮医療大学 保健医学部 教授)

事務局：奈良県総合リハビリテーションセンター

お問い合わせ

TEL:0744-32-0200

MAIL:kempt_24am@yahoo.co.jp (実行委員長：田中 陽一)

学会長挨拶

奈良県総合リハビリテーションセンター 嶋谷 和之

2018年に日本作業療法士協会の作業療法の定義が改定されました。その定義の注釈において「作業療法は『人は作業を通して健康や幸福になる』という基本理念と学術的根拠に基づいて行われる」とし、学術的根拠の重要性が明記されました。作業の効用は日々の臨床の中で実感しますが、作業療法の学術的基盤をさらに高めるとともに、作業療法実践の効果の蓄積と検証がより必要になりました。

また、定義の注釈において、作業に焦点を当てた実践には「心身機能の回復、維持、あるいは低下を予防する手段としての作業の利用」と「その作業自体を練習し、できるようにしていくという目的としての作業の利用」、および「これらを達成するための環境への働きかけが含まれる」と明示されました。作業療法の手段として、作業を用いることは言うまでもありませんが、「これらを達成するための環境」には人的環境すなわち作業療法士自身も含まれていると考えられ、その活用も重要であると思います。人がともに何かをするとき、さまざまな相互の関わりが生まれます。それは人が人を応援する作業療法の実践においても同様であり、作業療法士とクライアントとのダイナミックな過程が存在し、直接でしか伝えられないようなその臨床的な技術は、科学的に捉えにくく蓄積していくことが難しい面があるように思います。

奈良県では、2019年度の重点課題に対する取組方針として「誰もが健やかに暮らせる地域づくり」「快適に暮らし続けられる奈良県づくり」「働きやすく、良く学べる地域社会」などが推進されています。作業療法は、医療・保健・福祉・教育・職業など幅広い領域において、子どもから大人まで年齢を問わず貢献できる職種です。それぞれの領域が高度に発展する中で細分化されてきているものの基本は共通であり、領域を超えて学び合い、地域づくりへのさらなる貢献や県民の負託により応えていくことができればと思います。

第12回奈良県作業療法学会ではこのようなことを踏まえ、学会テーマを「子どもから大人までを応援する作業療法 ～科学と実践～」と致しました。その学会テーマに沿って特別講演、教育講演を企画致しました。演題のご応募もぜひお願い致します。研究や実践などの発表をして頂くことで、お互い学び合い高め合うことができればと思います。今回の学会が皆様にとって、なにがしかのきっかけや気づきが得られる機会になればと思っております。お誘いあわせ頂きまして多数のご参加をお待ち致しております。充実した学会になりますよう、皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。